取扱説明書

audio-technica

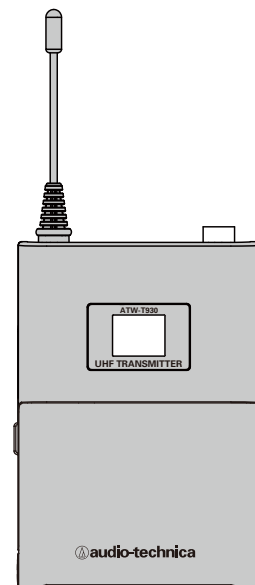
800MHz 帯

UHF SYNTHESIZED WIRELESS TRANSMITTER

ATW-T930A24

無線局免許必要（FPU2/FPU4 帯特定ラジオマイク）

ATW-T930B

無線局免許不要（特定小電力型ラジオマイク）

お買い上げありがとうございます。
本製品は 800MHz 帯のワイヤレスシステム用送信機 (2 ピーストランスミッター）です。
別売の受信機 (ワイヤレスレシーバー ATW-R920）と組み合わせてご使用ください。
ご使用になる前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
また保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

目次

特長

●PLL シンセサイザー方式採用。
A2 型 71 波 /A 型 71 波の切り換えが可能。(ATW-T930A24)、
B 型 30 波の切り換えが可能。(ATW-T930B)
●厚さ 17mm、質量 90g。軽量かつ堅牢なマグネシウム合金製。
●飛びが良く、柔軟性に富んだ 1/4 波長ホイップアンテナ。
●ライブ、イベントなどステージ用に最適。
●電波を発信せずに周波数の変更等が可能な「RF OFF モード」搭載。
●バッテリー残量など各種情報を液晶表示。
●2 d B ステップでゲイン調整が可能。
●暗い場所でも操作できる表示部バックライト装備。
●ラベリアマイクからヘッドウォーンマイク、さらには楽器入力に対応したマルチパーパス仕様。
●旧モデル（ATW-R92）との互換性を持ち運用可能。

⚠注意

●本製品は電波法に準拠して製造した日本国内専用モデルです。海外の法律には適合しておりません。
海外で使用すると各国の法律により処罰されることがありますので、海外ではご使用にならないでください。

●ATW-T930A24 は簡易無線局にあたるため、無線局の免許申請が必要となります。
詳しくは P.3 の**「A/A2 型ワイヤレスマイクの電波法に関する使用上の注意」**をお読みください。

●ATW-T930B は総務省の技術基準適合証明を受けており、免許不要で使用できます。

●本体に貼られている技術基準適合証明シールをはがすと法規上本製品を使用できなくなりますので、はがさないようご注意ください。

●本体を分解して改造を行なう行為は、法規上禁止されています。また、本製品は精密にできており、分解すると感電や故障、火災の原因にもなりますのでおやめください。

●強い衝撃を与えないでください。

●アンテナで目を突いたりしないように、ご注意ください。

●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かないでください。

●水がかからないようにしてください。

●火気に近付けないでください。

●本製品を使用しないときは、電源を切ってください。

●長い間保存するときには、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。

■ 使用上の注意

● 同じ周波数を同時に 2 波使用することはできません。

● 周囲の電波環境や複数台使用により、干渉ノイズを発生することがあります。他グループとの併用は特に干渉を起こしやすいのでご注意ください。

● ワイヤレスシステムは自動車のスパークノイズ、照明用調光装置、コンピューター、ＯＡ機器、電子楽器などの影響を受ける場合があります。影響を受けにくい位置に設置してご使用ください。

● 本製品は必ず当社指定の機器との組み合わせでご使用ください。

● ワイヤレスシステムに使用されているＵＨＦ帯の電波は波長が短く直進性が強いので、送信機と受信機間に障害物があると音切れの原因となる場合があります。見通せる位置関係でご使用ください。

■ 複数のワイヤレスシステムを使用するには

● 6 波以内で同時使用する場合は、A ２型 ,A型, B型各 1 〜 6 グループまでの同一グループ内でご使用ください。

● 同一場所で 7 波以上を使用される場合には、当社プロオーディオ営業部までお問い合わせください。

● 複数台同時使用の場合、送信機同士は 80ｃｍ以上、送信機と受信機は 3m以上離してください。

● 複数台使用する際は音をモニターしながら送信機の電源を順にＯＮにして雑音のないことをお確かめください。

● 使用時にハウリング (ピー、あるいはキーンという音) が発生した場合、接続しているミキサー / アンプなどのボリュームを絞ってください。

■ メンテナンス上の注意

● 汚れたときやほこりが付いたときは電池を抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

● ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。

⚠A/A2 型ワイヤレスマイクの電波法に関する使用上の注意

免許申請および許可について

●A/A2 型ワイヤレスマイクシステムは電波法で決められた「特定ラジオマイク（陸上移動局）」であり、特定ラジオマイク利用者連盟 (特ラ連）への加入が義務付けられています。
開設（運用）する前に常置場所を管轄する総務省地方総合通信局長（沖縄の場合は総務省沖縄総合通信事務所長）に申請して、無線局免許を受けてからご使用ください。
無線局免許状を入手しないで運用した場合は、電波法第 110 条により処罰される場合があります。
免許申請手続きに関するご相談、ご質問は特ラ連、もしくは当社プロオーディオ営業部までお問い合わせください。

●特定ラジオマイク利用者連盟（特ラ連）事務局
〒162-0042　東京都新宿区早稲田町 74　中村ビル 3F
TEL　03-5273-9806

■ 電池についての注意

⚠危険

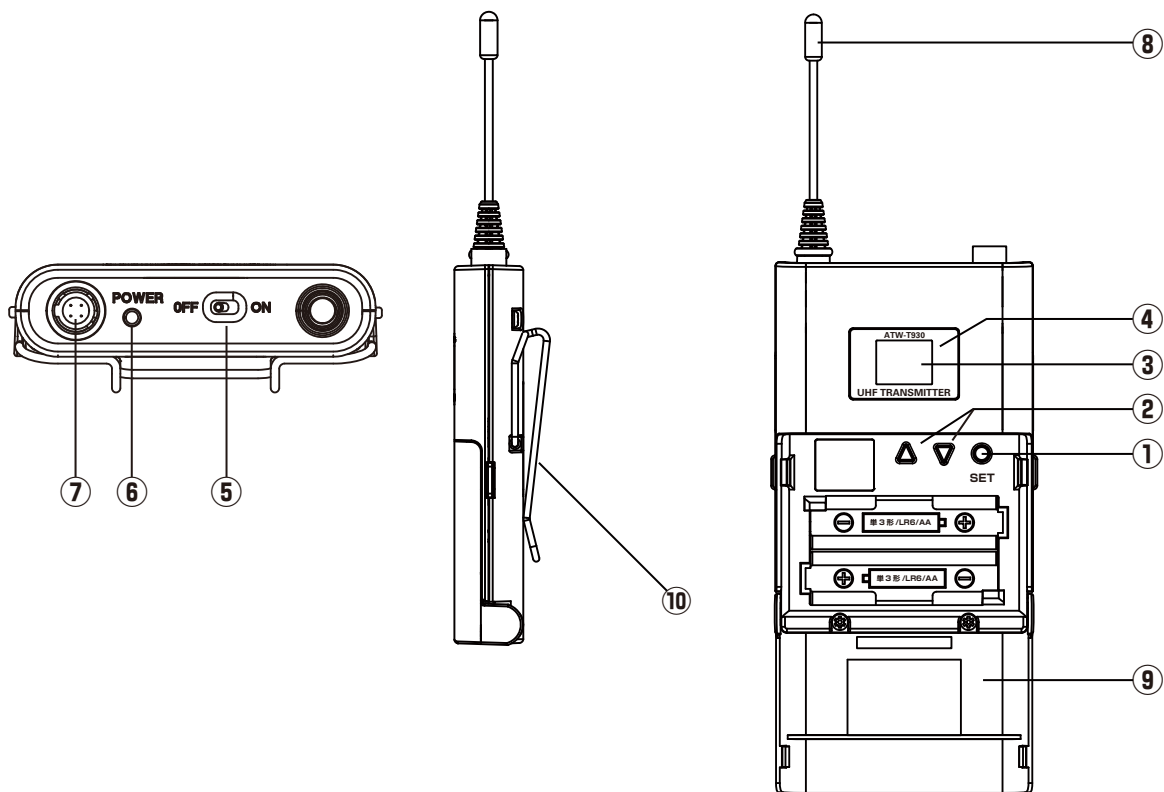
●電池の液が目に入ったときは目をこすらないでください。すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、医師の診察を受けてください。

⚠警告

●火の中に入れないでください。加熱、分解、改造しないでください。
●極性通りに入れてください。
●液漏れした電池はすぐに取り出し、液は素手でさわらないでください。
・幼児がなめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
・皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。
●硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、電池の＋と－を接続しないでください。
●新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
●乾電池は充電しないでください。
●使い切った電池はすぐに取り出してください。
●長時間使用しない場合は必ず電池を取り出してください。

⚠注意

●電池の液漏れや、変色・変形、その他今までと異なることに気づいたときは使わないでください。
●使用電池はアルカリタイプをおすすめします。
使用期限をご確認ください。期限切れの場合、使用できないことがあります。
●電池のタイプと使用方法によっては、電池寿命が異なる場合があります。
●落下させたり強い衝撃を与えないでください。
●直射日光の当たる場所、高温多湿の場所、炎天下の車内などの場所に放置、保管しないでください。
●水に濡らさないでください。

各部の名称と機能

① SET ボタン
LCD 表示部の表示切り換えや送信機の設定を確定する場合に使用します。
詳細は P.6「送信機の設定」をご覧ください。

② UP/DOWN ボタン
LCD 表示部の表示切り換えや送信機の設定を変更する場合に使用します。
詳細は P.6「送信機の設定」をご覧ください。

③ LCD 表示部
送信機の状態や設定のメニューを表示します。
詳細は P.5「各部の名称と機能<LCD 表示部> 」をご覧ください。

④ LCD ウィンドウ

⑤ 電源スイッチ
ON 側へスライドさせると電源が入り、LCD が点灯表示します。
詳細は P.14「 電源の入れかた 」をご覧ください。

⑥ パワーインジケーター
電源 ON 時に緑色に点灯します。
電池残量が少なくなると点滅します。
点滅中は使用できません。

⑦ 入力コネクター
付属のラベリアマイク、または楽器用ケーブルを接続します。

ピン配列
①グランド
②楽器入力
③マイク入力
④+5V 出力 （コンデンサーマイク専用）

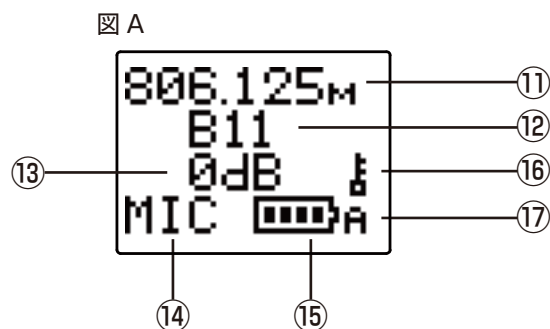
⑧ 送信用アンテナ
1/4λホイップアンテナです。

⑨ バッテリードア
バッテリーの交換、送信機の設定時に開閉します。
詳細は P.13「電池の入れかた 」をご覧ください。

⑩ ベルトクリップ
ベルトなどにはさみます。
詳細は、P.14「ベルトクリップの使いかた」をご覧ください。

各部の名称と機能<LCD 表示部>

■デフォルト表示

図 A

⑪ 周波数表示
設定された周波数を表示します。

⑫ グループ / チャンネル表示
設定された送信チャンネルを表示します。
詳細は P.12「 グループ / チャンネル組み合わせ表」をご覧ください。

⑬ 入力レベル表示
設定された入力レベルを表示します。
詳細は P.8「 入力レベルの設定」をご覧ください。

⑭ MIC,INST 表示
設定された接続する機器を表示します。
詳細は P.9「入力選択の設定」をご覧ください。

⑮ バッテリー表示
送信機のバッテリー残量を表示します。
詳細は P.13「バッテリー残量表示について」をご覧ください。

⑯ キーロック
キーロックをしているときに表示します。
このマークが表示されているときは、各設定の変更はできません。
詳細は P.11「キーロックの設定」をご覧ください。

⑰ バッテリータイプの表示
BATTTYPE が ALKALINE の場合に「A」を表示します。
NI-MH の場合に「N」を表示します。
詳細は P.9「バッテリータイプの設定」をご覧ください。

送信機の設定

1. 設定メニューの選択 (メニューモード)

電源を入れるとデフォルト表示（P.5 の図 A）が LCD 表示部に現れます。
デフォルト表示のときに SET ボタン（P.4 の①）を短押しすると、メニューモードに入り「MENU」（図 B) を表示します。

図 B

メニューモードに入っているときは「MENU」が表示されます。

UP/DOWN ボタン（P.4 の②）を押すことにより下図矢印の順に表示内容が変わります。
編集したいメニューを表示させ SET ボタンを短押しすると、設定モード（EDIT モード）に入ります。
このメニューモードで、約 30 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。
ボタン操作を約 10 秒間行なわないとバックライトは消灯します。

B 型　　A24 型

UP　DOWN

B 型	A24 型	
MENU FREQ 806.125M MIC	MENU FREQ 779.125M MIC	周波数でチャンネルの設定（P.7）参照
MENU GROUP B11 MIC	MENU GROUP A2L11 MIC	グループでチャンネルの設定（P.7) 参照
MENU RF POWER HIGH MIC	MENU RF POWER HIGH MIC	送信出力レベルの設定（P.8) 参照
MENU AF GAIN 0dB MIC	MENU AF GAIN 0dB MIC	入力レベルの設定（P.8) 参照
MENU INPUT MIC MIC	MENU INPUT MIC MIC	入力選択の設定（P.9) 参照
MENU BATTTYPE ALKALINE MIC	MENU BATTTYPE ALKALINE MIC	バッテリータイプの設定（P.9) 参照
MENU R92TONE OFF MIC	MENU R92TONE OFF MIC	R92TONE の設定（P.10) 参照
MENU LOWCUT OFF MIC	MENU LOWCUT OFF MIC	LOW CUT の設定（P.10) 参照 ※入力選択の設定が「MIC」の時のみ表示します。
MENU KEYLOCK NO.LOC MIC	MENU KEYLOCK NO.LOC MIC	キーロックの設定（P.11) 参照
MENU RESET MIC	MENU RESET MIC	初期状態に戻す（P.11) 参照
MENU QUIT MIC	MENU QUIT MIC	デフォルト表示に戻す（P.11) 参照

2. 周波数でチャンネルの設定

メニューモードで FREQ を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより左図矢印の順に表示内容が変わります。
希望の周波数に合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 C) が出るまで押し続けます。

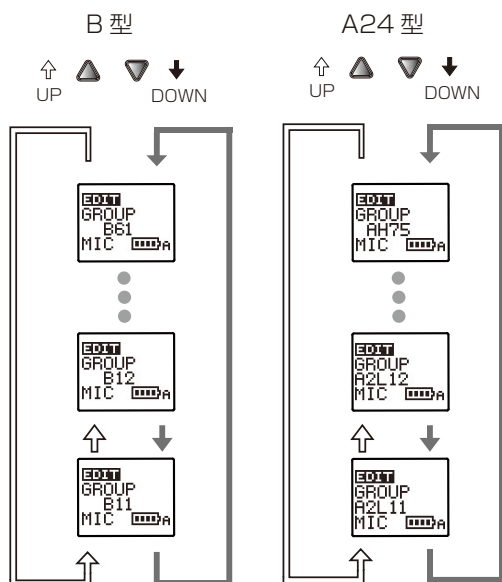
この一連の操作で設定変更が完了します。
途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 D) が点灯し、「EDIT」の表示が「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

図 C

図 D

EDIT
FREQ
ESCAPE
MIC

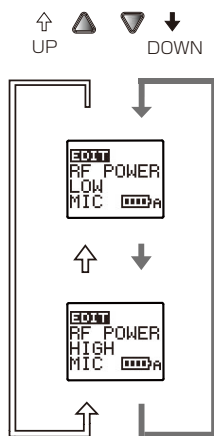
3. グループでチャンネルの設定

メニューモードで GROUP を選択し SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより左図矢印の順に表示内容が変わります。
希望のグループ／チャンネルに合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 E) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定変更が完了します。
途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 F) が点灯し、「EDIT」の表示が「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

図 E

図 F

4. 送信出力レベルの設定

メニューモードで RF POWER を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより、左図矢印の順に表示内容が変わります。
希望の状態に合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 G) が出るまで押し続けます。
この一連の操作で設定変更が完了します。

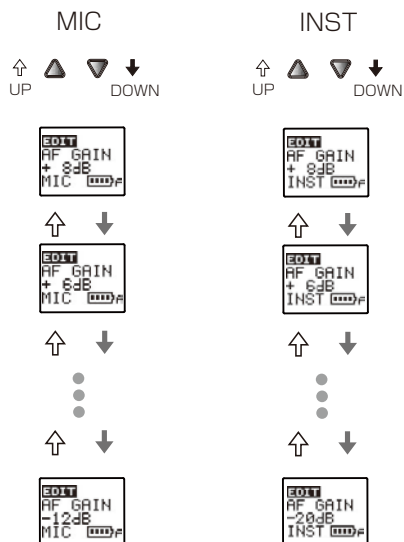
途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 H) が点灯し、「EDIT」が「MENU」の表示に変わります。

図 H

この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

使用範囲が広い場合は「HIGH」(10mW) に設定してください。
使用範囲が狭い場合は「LOW」(2mW) に設定してください。

＊初期状態では HIGH に設定されています。

5. 入力レベルの設定

メニューモードで AF GAIN を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより、左図矢印の順に表示内容が変わります。
入力選択の設定が MIC の場合は、−12 d B から +8 d B まで、2 d B 間隔で選択できます。
入力選択の設定が INST の場合は、−20 d B から +8 d B まで、2 d B 間隔で選択できます。
希望の状態に合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 I) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定変更が完了します。

図 I

EDIT
RF POWER
STORED

途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 J) が点灯し、「EDIT」が「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

図 J

＊初期状態では MIC の場合は 0 d B、INST の場合は−8 d B に設定されています。

6. 入力選択の設定

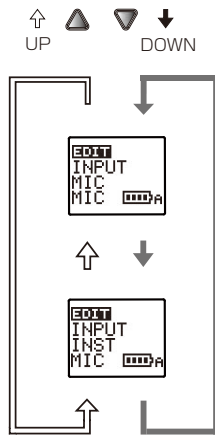



図 K

図 L

メニューモードで INPUT を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより左図矢印の順に表示内容が変わります。
希望の状態に合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 K) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 L) が点灯し、「EDIT」が「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

ラベリアマイクなどを接続するときは「MIC」に設定してください。
楽器用ケーブル (AT8319) などを接続するときは「INST」に設定してください。

＊初期状態では MIC に設定されています。

7. バッテリータイプの設定

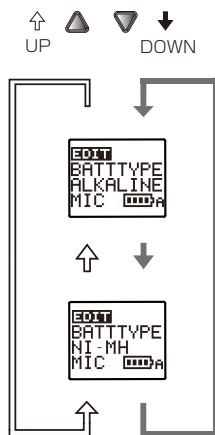



図 M

図 N

メニューモードで BATTTYPE を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより左図矢印の順に表示内容が変わります。
希望の状態に合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 M) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 N) が点灯し、「EDIT」が「MENU」の表示に変わります。

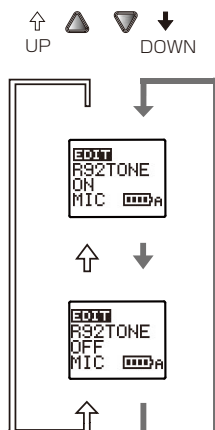
この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

アルカリ乾電池を使用する場合は「ALKALINE」に設定してください。
ニッケル水素充電池を使用する場合は「NI-MH」に設定してください。
使用する電池と BATTTYPE の設定が合っていないと、バッテリー残量表示が正しく表示されませんので、必ず使用する電池と BATTTYPE の設定を合わせてください。
操作後、設定したバッテリータイプと表示が合っていることを確認してください。
表示詳細は P.5「各部の名称と機能 <LCD 表示部 >」をご覧ください。

＊初期状態では ALKALINE に設定されています。

8.R92TONE の設定

図 O

図 P

メニューモードで R92TONE を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより、左図矢印の順に表示内容が変わります。
希望の状態に合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 O) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 P) が点灯し、「EDIT」が「MENU」の表示に変わります。

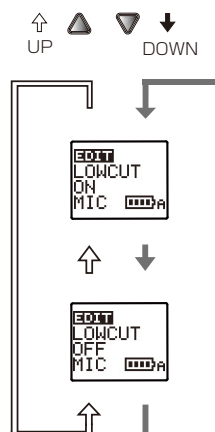
この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

R92TONE の設定を行なうことにより、当社製品の ATW-R92 と組み合わせて使用することができます。
ATW-R92 と組み合わせて使用する場合は「ON」に設定してください。
ATW-R920 と組み合わせて使用する場合は「OFF」に設定してください。
上記以外の設定をした場合は受信機が正しく動作しませんので、必ず R92TONE の設定をしてください。

＊初期状態では OFF に設定されています。

9.LOW CUT の設定

図 Q

図 R

メニューモードで LOWCUT を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより、左図矢印の順に表示内容が変わります。
希望の状態に合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 Q) が出るまで押し続けます。

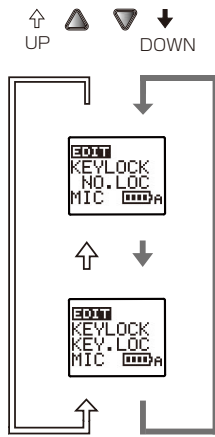
この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 R) が点灯し、「EDIT」が「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

LOWCUT の設定を行なうことにより、入力の低域部をカットします。
風雑音や吹かれノイズが大きいときなどに有効です。
MIC 選択時のみ有効です。

＊初期状態では OFF に設定されています。

10. キーロックの設定

メニューモードで KEYLOCK を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
UP/DOWN ボタンを押すことにより、左図矢印の順に表示内容が変わります。
希望の状態に合わせ SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 S) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 T) が点灯し、「EDIT」が「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。
*「NO.LOC」: 設定データを変えることができます。
「KEY.LOC」: 本体の設定変更ができません。
送信機の設定変更は「NO.LOC」にしてから行なってください。

図 S

図 T

11. 初期状態に戻す

メニューモードで RESET を選択し、SET ボタンを短押しすると設定モードに入り「EDIT」を表示します。
SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示（図 U) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止するときは、SET ボタンを短押しします。
一瞬、「ESCAPE」の表示（図 V) が点灯し、「EDIT」が「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

図 U

図 V

初期状態

FREQ (GROUP)	:779.125MHz(A2L11)	*ATW-T930A24
	:806.125MHz(B11)	*ATW-T930B
RF POWER	:HIGH	
AF GAIN	:0dB	
INPUT	:MIC	
BATT TYPE	:ALKALINE	
R92TONE	:OFF	
LOWCUT	:OFF	
KEYLOCK	:NO.LOC	

12. デフォルト表示に戻す

メニューモードで QUIT を選択し SET ボタンを短押しします。
デフォルト表示に戻ります。

このメニューモードに入った状態でボタン操作を行なわないと約 30 秒でデフォルト表示に戻ります。

グループ / チャンネル組み合わせ表

●ATW-T930A24 は A2 型 71 波 /A 型 71 波、ATW-T930B は B 型 30 波まで選択可能です。
1 〜 7 はグループ、①〜⑥はチャンネルを表します。

周波数表　A2 型（L バンド：36CH、H バンド：35CH）
A 型（L バンド：36CH、H バンド：35CH)、B 型：30CH

A2 型 L バンド

グループ＼チャンネル	①	②	③	④	⑤	⑥
1	779.125	779.375	780.125	780.750	782.000	782.500
2	779.250	779.500	780.000	780.875	781.500	781.875
3	779.625	779.875	780.375	781.250	781.625	782.250
4	779.750	780.500	781.000	782.125	782.375	782.750
5	780.625	781.125	781.375	781.750	782.625	
6	780.250					
7	782.875	783.000	783.125	783.250	783.375	783.500

（単位：MHz）

A2 型 H バンド

グループ＼チャンネル	①	②	③	④	⑤	⑥
1	783.625	783.875	784.625	785.250	786.500	787.000
2	783.750	784.000	784.500	785.375	786.000	786.375
3	784.125	784.375	784.875	785.750	786.125	786.750
4	784.250	785.000	785.500	786.625	786.875	787.250
5	785.125	785.625	785.875	786.250	787.125	
6	784.750					
7	787.375	787.500	787.625	787.750	787.875	

（単位：MHz）

A 型 L バンド

グループ＼チャンネル	①	②	③	④	⑤	⑥
1	797.125	797.375	798.125	798.750	800.000	800.500
2	797.250	797.500	798.000	798.875	799.500	799.875
3	797.625	797.875	798.375	799.250	799.625	800.250
4	797.750	798.500	799.000	800.125	800.375	800.750
5	798.625	799.125	799.375	799.750	800.625	
6	798.250					
7	800.875	801.000	801.125	801.250	801.375	801.500

（単位：MHz）

A 型 H バンド

グループ＼チャンネル	①	②	③	④	⑤	⑥
1	801.625	801.875	802.625	803.250	804.500	805.000
2	801.750	802.000	802.500	803.375	804.000	804.375
3	802.125	802.375	802.875	803.750	804.125	804.750
4	802.250	803.000	803.500	804.625	804.875	805.250
5	803.125	803.625	803.875	804.250	805.125	
6	802.750					
7	805.375	805.500	805.625	805.750	805.875	

（単位：MHz）

B 型

グループ＼チャンネル	①	②	③	④	⑤	⑥
1	806.125	806.375	807.125	807.750	809.000	809.500
2	806.250	806.500	807.000	807.875	808.500	808.875
3	806.625	806.875	807.375	808.250	808.625	809.250
4	806.750	807.500	808.000	809.125	809.375	809.750
5	807.625	808.125	808.375	808.750	809.625	
6	807.250					

（単位：MHz）

＊本製品は使用条件により 7 波以上の組み合わせも可能です。表の 7 グループは 7 波以上同時使用のための補助周波数のグループです。

＊表の 7 グループご使用の際と A2 型、A 型、B 型を組み合わせて 7 波以上同時使用する際は、当社プロオーディオ営業部までお問い合わせください。

チャンネルプラン例

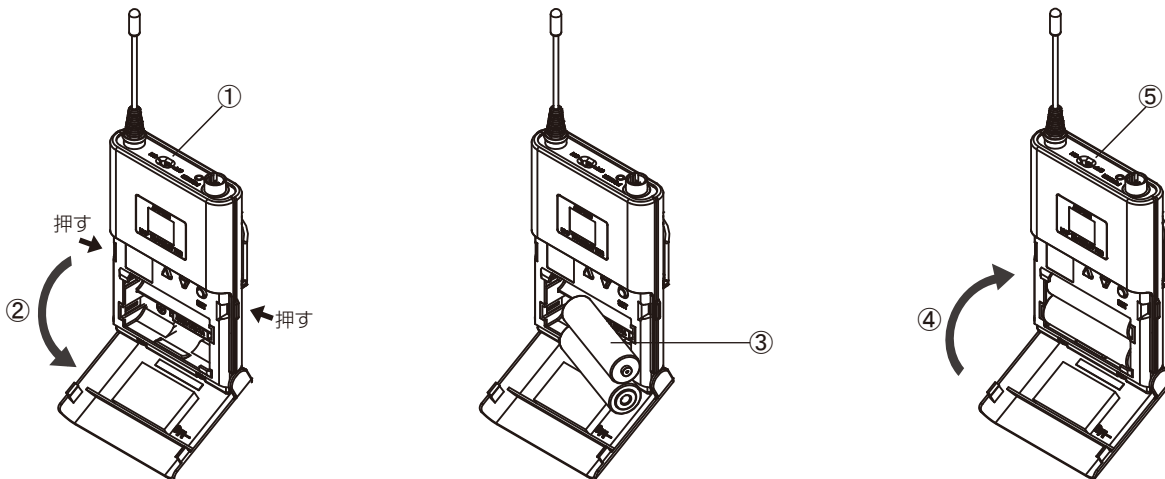
低→周波数←高		A2L+A2H		
		7 波		10 波
A2 型	A2L	A2L11	A2L22	A2L22
		A2L12	A2L32	A2L61
		A2L24	A2L45	A2L14
		A2L26		A2L54
				A2L44
		4	3	5
	A2H	A2H21	A2H31	A2H41
		A2H35	A2H15	A2H53
		A2H46	A2H72	A2H16
			A2H74	A2H73
				A2H75
		3	4	5

上の表の A 2 型の組み合わせに右の表の AL-AH-B 型のいずれを組み合わせてもご使用になれます。

チャンネルプラン例

低→周波数←高		AL+AH			AL+AH+B						
		7 波		10 波	11 波					12 波	
A 型	AL	AL11	AL22	AL22	AL11	AL21	AL43	AL31	AL12	AL11	AL12
		AL12	AL32	AL61	AL32	AL22	AL44	AL23	AL41	AL12	AL31
		AL24	AL45	AL14	AL61	AL14	AL76	AL43	AL24	AL41	AL24
		AL26		AL54	AL54	AL25		AL36		AL14	AL34
				AL44						AL26	AL36
										AL75	AL72
		4	3	5	4	4	3	4	3	6	6
	AH	AH21	AH31	AH41	AH12	AH41	AH43	AH22	AH11	AH52	AH42
		AH35	AH15	AH53	AH33	AH61	AH54	AH43	AH35	AH26	AH46
		AH46	AH72	AH16	AH54	AH55	AH75			AH45	
			AH74	AH73							
				AH75							
		3	4	5	3	3	3	2	2	3	2
B 型	B				B16	B51	B12	B23	B11	B41	B11
					B21	B54	B15	B61	B12	B54	B25
					B41	B45	B45	B14	B13	B55	B44
					B46	B46	B52	B26	B14		B55
							B55	B46	B15		
									B16		
					4	4	5	5	6	3	4

操作のしかた

■ 電池の入れかた

① 電源スイッチが OFF の位置にあることを確認します。

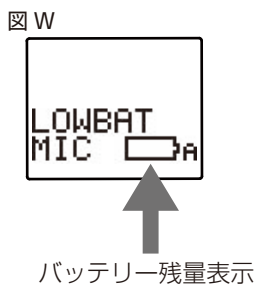
② 左右のロックを押し、バッテリードアを開けます。

③ 別売の単 3 形電池 2 本を極性の表示に従って（－）側から 1 本ずつ入れます。

④ バッテリードアを閉じ「カチッ」とロックが入るまで押さえます。

⑤ 電源スイッチを ON にし、動作を確認します。

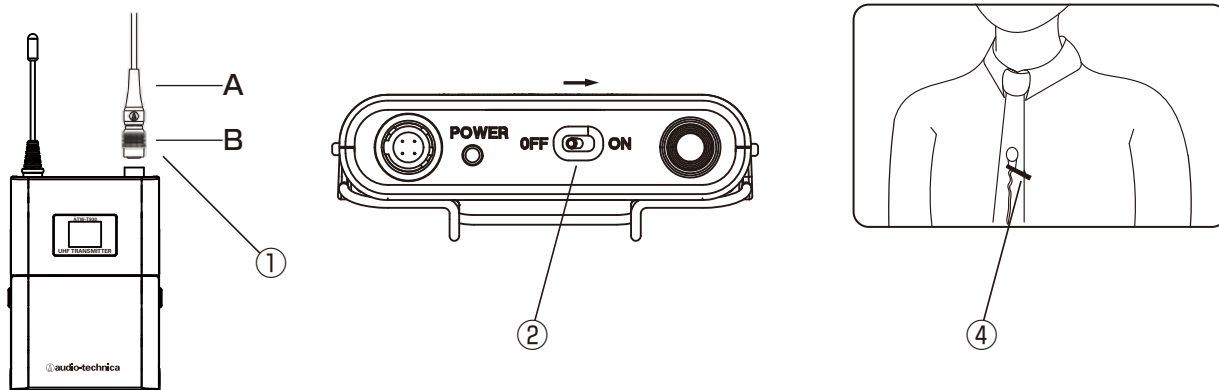
■ バッテリー残量表示について

図 W

バッテリー残量表示

バッテリー残量表示のバーの数によって、おおよその連続使用時間が分かるようになっています。
バー数が、4→3→2→1 の順に減っていき、電池残量が少なくなると LCD 表示部に (図 W) の表示が点滅します。
表示が点滅しましたら、早めに新しい電池に交換してください。

表示状態	■■■■	■■■	■■	■	（点滅）
連続使用時間	約 3 時間以上	約 3 時間以下	約 1.5 時間以下	約 1 時間以下	要交換

※上記は、室温 25℃、RF HI 出力、アルカリ乾電池使用時における連続使用時間です。
間欠使用時や低温時、送信機の設定条件、電池の種類や特性によっては使用時間が異なります。
※使用する電池の種類によって設定を変更する必要があります。
詳しくは P.9「バッテリータイプの設定」をご覧ください。

■ 電源の入れかた

① 入力コネクターにケーブルを接続します。
付属のラベリアマイクまたは、楽器用ケーブルを入力コネクターに接続します。
A 部を指先で持ち本体側コネクターの溝に合わせながら、軽く押し込みます。
取り外すときは、B 部を指で持ち上げながら引きあげます。
＊ケーブルを接続するときは電源を OFF にしてください。

② 電源を入れます。
電源スイッチを ON にします。

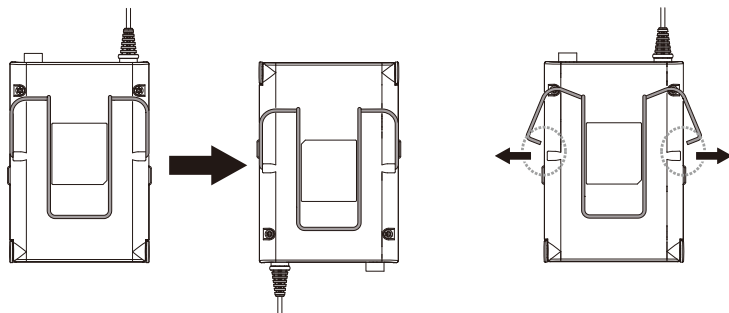
③ 周波数を設定します。
送信する周波数を選択します。
（詳細は P.7「周波数 / グループでチャンネルの設定」をご覧ください。）
受信機も同じチャンネルに合わせます。

④ 入力機器を設置します。
ラベリアマイクを使用するときは、マイク部を襟元やネクタイに取り付けます。
楽器用ケーブルを使用するときは、楽器の出力端子にケーブルを接続します。

⑤ ラベリアマイクに音声を入れます。
受信機で受信するか確認します。
ハウリングが起こる場合は、設定メニューの入力レベルを下げるか、接続しているミキサー / アンプなどの出力ボリュームを絞って調整します。

■ RF OFF モードについて

DOWN ボタン（P.4 の②）を押しながら電源スイッチを ON にすると、RF OFF モードに入ります。
RF OFF モード時は、すべての表示が点滅します。
RF OFF モードに入ることにより、送信出力がない状態で送信機の各設定（P.6 ～ P.11）を行なうことができます。
RF OFF モードの解除を行なうには、電源スイッチを OFF にしてください。
再度電源スイッチを ON にすると、通常の動作に戻ります。

■ ベルトクリップの使いかた

ベルトクリップ（P.4 の⑩）を使用してベルトなどに挟み込みます。
ベルトクリップを逆方向に取り付けると入力コネクターの向きを逆にすることができます。
ベルトクリップを本体から外すときは、ベルトクリップの両側を強く外側へ引いてください。

テクニカルデータ

発振方式		: 水晶制御 PLL シンセサイザー方式
送信周波数	ATW-T930A24	: 779.125 ～ 787.875MHz 、797.125 ～ 805.875MHz
	ATW-T930B	: 806.125 ～ 809.750MHz
電波形式		: F3E
トーン信号		: 32.768 kHz
空中線電力		: 10mW（RF HI)、2mW（RF LOW)
最大周波数偏移		: ±40 kHz
周波数特性		: MIC 入力（LOW CUT OFF 時） 50 ～ 15,000Hz MIC 入力（LOW CUT ON 時）150 ～ 15,000Hz INST 入力　50 ～ 15,000Hz
最大入力レベル	MIC INPUT	: −20 d BV
	INST INPUT	: 0 d BV
コンデンサ供給電源電圧		: DC5V
アンテナ		: 1/4 λ ホイップアンテナ
電源		: DC3V（単 3 形アルカリ乾電池 ×2 本）
動作温度範囲		: 5℃～ 45℃
電池寿命 （アルカリ乾電池使用時／使用条件による）		: 約 8 時間　（RF HI 出力時）、約 10 時間　（RF LOW 出力時）
消費電流		: 約 180mA 以下（DC3V 時）
外形寸法（突起物を除く）		: W68×H98×D17mm
質量		: 約 90g

●付属品：専用ケース、ラベリアマイク AT829ｃW（単一指向性バックエレクトレット・コンデンサー型、ウィンドスクリーン、タイクリップ付）
　工事設計の認証書のコピー（製品シリアル番号追記）（ATW-T930A24 のみ）
●AT829ｃW は ATW-T930 専用ラベリアマイクとなります。旧モデル（ATW-T93）では使用できません。
●本製品は日本国内専用モデルです。

（改良などのため予告なく変更することがあります。）

外形寸法図

（単位 :mm）